



当日の夜クロムツ仕掛け
 竿：リアルファタックル・HBAカムツ 180
 リール：小型電動
 幹糸：12号
 枝：8号
 ダブルスナップサルカン
 オモリ：120号

●Tackle Guide
 船宿仕掛けは捨て糸がなく、一番下の親子サルカン下にダブルスナップを付けてオモリを直結しているのが特徴。捨て糸が短いので吹き流しの状態でも投入できる。

産するポイントだ。アタリは明確にガツガツと竿先がたたかれる。向こう合わせでも掛かるが、竿を起すように合わせを入れ、しっかりとフッキングさせたほうがバラシが少ない。活性が高い状況であればすぐに巻き上げず追いついたとき、食い渋いときは1尾ずつ確実に釣り上げたほうが賢明だ。さっそく船中数名にアタリが到来したが、上がってきたのは25センチ前後のオキメバシだ。



▼食いが立てばダブル、トリプルも

これが起爆剤となったのか、後半はクロムツの活性が高まり、船中あちこちでガツガツと竿がたたかれ始めた。左舷ミヨシの小池さんは夜

チが入ると、「後ろでデカイクロムツが上がりましたよ！」と仲乗りさんから声がかかる。40センチくらいかな？なんて思いながらカメラを持って駆けつけると、右舷大ドモの高橋さんがとんでもないサイズをぶら下げている。60センチ2.5キロ。深場のクロムツならまだしも、標準和名ムツでこのサイズはまさに規格外だ。

時間経過とともにサバとスマキヤ(クロシビカマス)のアタリが多くなってきた。「釣れたサバを切ってエサに使おうと食いがいいからやってみて」と船長からアナウンスが入る。皆さん心得ており、さっそく持参しているナイフでカットしてエサ付けし投入すると、

その効果があつてか、右舷胴の間のお客さんが本命クロムツを釣り上げた。いい反応はあるものの、なかなか集魚灯の明かりに着かないようで、船長はこまめに船を流し変え、その都度底の地形や指示ダナの変化を細かくアナウンスしている。「やったー！釣れた！」と右舷トモ側から可愛い歓声が聞こえてきた。小学3年生の平野湊君がお父さんと力を合わせて本命をゲットすると、満面の得意ポーズをキメてくれた。

クロムツ初挑戦ながらも根気よく誘い続けトップとなる4尾をゲット。右舷2番の根本さんも新鮮なサバのタンザクを使って4尾釣り上げ、左舷4番の田城さんはダブルを披露する。私も撮影の合間に置き竿超スロー電動巻き上げで誘っていると、本命のクロムツと40センチ超の大アジが上がってきた。

まだ型を見ていなかった右舷4番の長江さん、左舷2番の篠原さんも納竿間際に駆け込みセーフで本命クロムツを手にした。

プチ盛り上がりしていただけに後ろ髪を引かれる思いだったが、22時50分に沖揚がりとなった。当日のクロムツの釣果は25〜30センチ主体に60センチサイズも交じって0〜4尾。ほかにサバ、スマキヤ多数とメバルなどがゲストとして交じった。釣果としては芳し

●船宿information
 東伊豆網代港
つちそう丸
 ☎0557-68-2469
 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=夜クロムツ乗合一人1万3000円(エサ、水付き)
 ▶備考=予約乗合。集合時間は予約時に確認。ほか御蔵島遠征のシマアジへも

土屋 旬船長



▲東伊豆の夜クロムツは9〜10月が好期。当日は60センチ2.5キロの特大サイズも登場
 ▼名月を望む夜釣りドリフレッシュ



「仕掛けのハリ数は3本までを厳守してください」と船長からアナウンス。サバによるオマツリ軽減と手返し効率重視のためである。船は20分ほど走らせて釣り場に到着。水深は60〜100メートルの範囲と日中のクロムツ釣りより半分以上も浅い。「ハイット、やってみて。タナは上から70メートルです」と開始の合図が出される。

クロムツという底付近を探る釣りといったイメージがあるが、捕食のため夜間に浅場へ上がってきたクロムツはタナが底から15メートルも上ずることが珍しくない。誘い方はゆっくりリフトと枝間分シャクリ上げて元の位置に下ろす。アタリがなければ1メートル巻き上げ、同じ動作を繰り返す。いったん引っぱり上げられたエサが潮に馴染みながらフワフワと上か

ら落ちてくるイメージで誘うのがよい。また、竿を小さく上下に動かしながら、幹糸に枝が張り付かない程度のスロー速度で誘い上げていくのもいい。私のような横着な人は竿をロッドキーパーにかけたまま、速度1の超スローな電動巻きで探り上げていくのも手だ。いずれにしろ、根気よく上へ上へと指示ダナ上限まで誘いつつ探ることがアタリを量

東伊豆エリアの名物のひとつに夜釣りのクロムツ(ムツ)釣りがあげられる。釣り上げると浮き袋が膨らみ、お腹がブククリ膨れた姿から当地ではハラプト(腹太)と呼ばれており、魚姿に似合わぬ強いアタリは釣って楽しく、刺身、煮つけ、焼き物どれも抜群の食味とあってこの釣りの開幕を待ちわびているファンも多い。

8月に入りいよいよ乗合船をスタートさせたことでお盆休みを利用して8月11日にさっそく出かけてみた。17時前、乗船準備が整ったところでお客さんの名前が呼ばれ、船長から釣り座を指示される。事前リサーチでは釣況は芳しくないとのことだったが、右舷に9名、左舷に8名と釣りの人気っぷりに驚かされる。各釣り座にはバケツ一杯の水と付けエサのサバの切り身、そして魚つかみ用のトンダが付与されている。船ベリにはロッドキーパーも設置されているので、乗

り込んだらそれにタックルをセットすれば準備完了だ。手際よく準備が整い、17時過ぎに釣り場の初島沖へ向けて出船となった。

特大サイズが出た
 「仕掛けのハリ数は3本までを厳守してください」と船長からアナウンス。サバによるオマツリ軽減と手返し効率重視のためである。

「よく切れるナイフをお忘れなく！」

東伊豆名物夜クロムツ開幕 シーズン本番はこれから

●東伊豆網代港発！初島沖 本誌ABC(東京)権名義徳 Yoshinori Shimizu